

## 外部アドバイス結果

|                |   |  |
|----------------|---|--|
| 1 外部アドバイスの目的   | 府が運用する環境マネジメントシステムがISO14001の要求事項に準じて適切に実施・維持されているかについて、第三者の視点により調査するとともに、システム運用等の改善に関する助言を得ること。   |  |
| 2 適用範囲         | 大阪府庁環境マニュアルの適用範囲を対象とする。   |  |
| 3 実施日時         | 平成30年3月27日 9:55～11:40   |  |
| 4 外部アドバイザー職・氏名 | 特定非営利活動法人大阪環境カウンセラー協会 廣瀬 桃子氏  |  |
| 5 外部アドバイス実施内容  | (1)環境マネジメントシステムの実施・維持についての改善アドバイス<br>(2)事務局の取組状況についての改善アドバイス  |  |
|                | アドバイス   | 府の対応   |
|                | <p><b>【部局ごとの評価について】</b><br/>エコ課計簿の提出と入力状況、内部環境監査結果からすると、部局(や所属)によって取組みに大きな温度差が感じられる。<br/>これらを解消していくためにも、取組み状況(エコ課計簿の提出・入力状況も含む)や活動実績に関して、他部局との比較ができるような情報を、事務局から庁内環境総括責任者(各部局の次長)に向けて発信してはどうか。<br/>そうすることによって、自部局の取組みレベルや課題をより明確に認識してもらうとともに、現場への具体的な指示・フォードバックも促すことができるのではないかと。</p> <p><b>【府立学校における取組みの推進について】</b><br/>担当職員を対象とした研修を実施するだけでなく、所属長である校長に向けても改めて、「学校は環境教育に取り組んでいる現場であり、教える立場にある学校自身が府の環境マネジメントシステムの中で着実に環境活動を実践していくことには社会的に大きな意義がある」ということを訴え、取組みを推進する上での一層の理解と協力が得られるように働きかけてはどうか。<br/>そうすることにより、学校の教職員が一体となって活動する為に必要な指示やサポートが校長によって実践され、一部の担当者だけに負担がかかり、現場の取組みが停滞してしまう事態も回避できるのではないかと。</p> <p><b>【外部アドバイスのあり方について】</b><br/>大阪府独自の環境マネジメントシステムの導入から9年が経ち、その間に外部アドバイスに期待される内容も変わりつつある。<br/>現行のような書類に基づき事務局とのやり取りによって行うアドバイス以外にも、現場への直接訪問や担当者へのインタビューを通じて、現場で必要とされるアドバイスを提供することも考えられる。<br/>環境マネジメントシステムを運用する他の自治体の実態を調べ、その情報も参考に、今後の大阪府としての外部アドバイスのあり方や具体的な方法を再考してみてもどうか。</p> | <p>部局ごとのコピーの両面率やグリーン調達の達成率など、庁内環境総括責任者である部局の次長に評価を知らせることについて検討していきます。</p> <p>担当職員だけでなく、所属長である校長に、エコ課計簿を活用した環境マネジメントシステムの意義について説明できるよう、教育委員会と連携して取り組んでいきます。また、来年度の内部環境監査において、府立学校を重点的に選択し、府立学校における環境マネジメントシステムの運用について確認していくことを検討していきます。</p> <p>今までISOに準じて外部アドバイスを受けてきましたが、施設の維持管理をしている所属から省エネにつながるアドバイスの必要性を聴取したり、他府県の外部アドバイスの状況を調査したり等により、効果的な外部アドバイスのあり方について検討していきます。</p> |